

戦略
1

『国学院久我山』としての 共同体意識の深化による在校生への寄与

戦略達成のストーリー

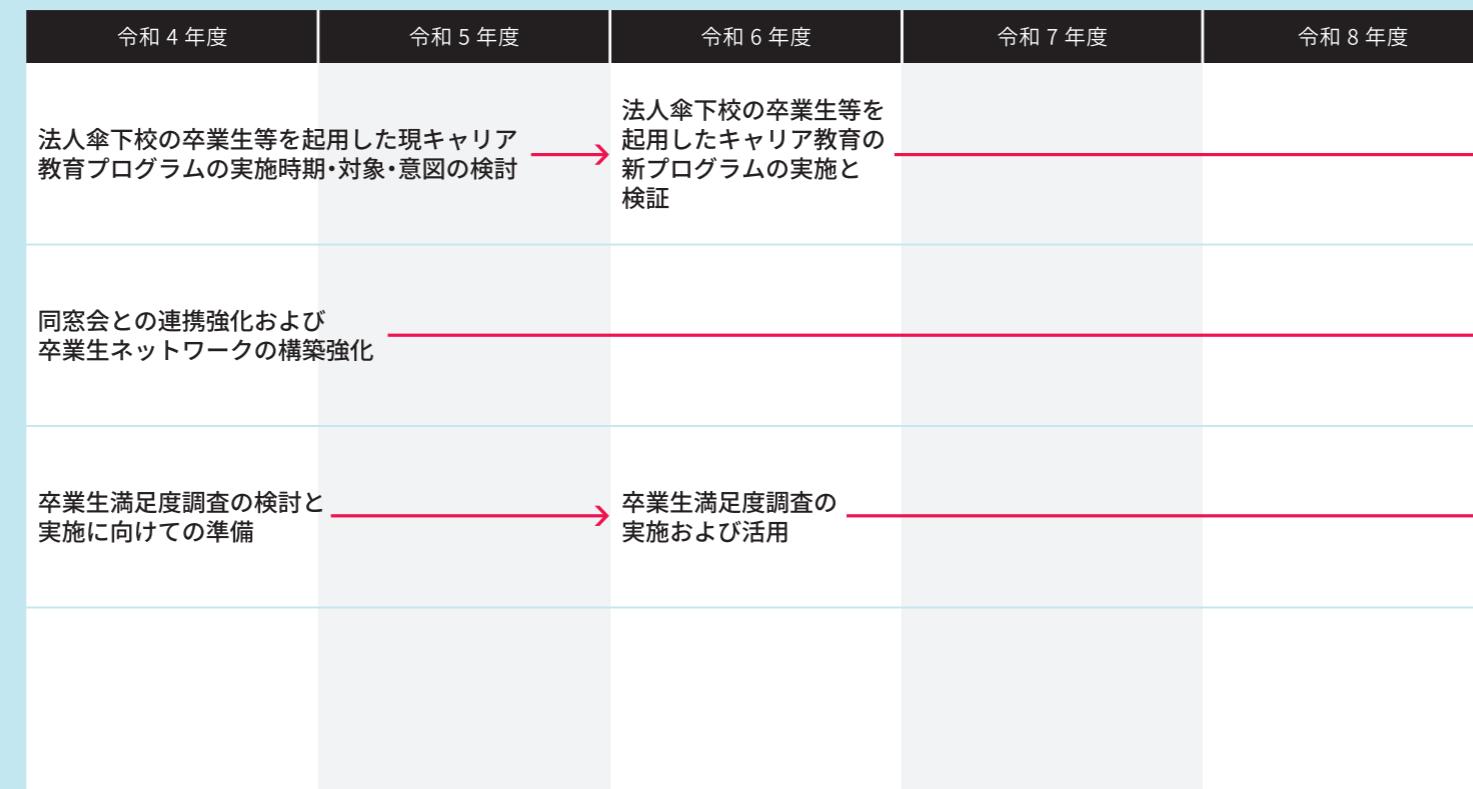
上級学校への進学だけではなく、社会人となって働くことを見据えたキャリア教育を実践していくために、卒業生のネットワーク構築を急ぐ。また、卒業生への満足度調査を行い、卒業生にとっての「久我山の価値」を明確にし、在校生のキャリア教育に役立てていく。

現在の姿

[ネットワーク] 将来の進路を見据えた男子部のキャリア教育を体系化し、生徒へ提供していく必要がある。学校行事やイベント情報を、現状より拡大して届けていく必要がある。卒業生にとっての「久我山」を明らかにして、生徒のキャリア教育に生かしていく必要がある。

現在の指標

| | |
|--------------------------|---------------------------|
| キャリア教育企画数 2 件 | 卒業生満足度調査 検討段階 |
| 新年同窓会参加者 235 人 | 文化祭卒業生来場者 449 人 |



達成後の姿

[ネットワーク] 男女それぞれの特色あるキャリア教育に加えて、男女協働に向けたプログラム提供によって、生徒がキャリアに関する視野を広げている。ホームページ以外からの情報の発信(SNSの導入など)が増え、国学院久我山の情報が広がり、卒業生と久我山のネットワーク強化に情報面から貢献している。各世代の卒業生が在校期間中に考えていたことを把握し、在校生の学びやキャリア教育に反映されている。

評価指標

| | |
|--------------------------|-----------------------------|
| キャリア教育企画数 6 件 | 卒業生満足度 80% |
| 新年同窓会参加者 330 人 | 文化祭卒業生来場者 1,000 人 |

戦略

2

中高連携のさまざまな活動や学びを通じた、 主体的かつ協調的な姿勢の体得

戦略達成のストーリー

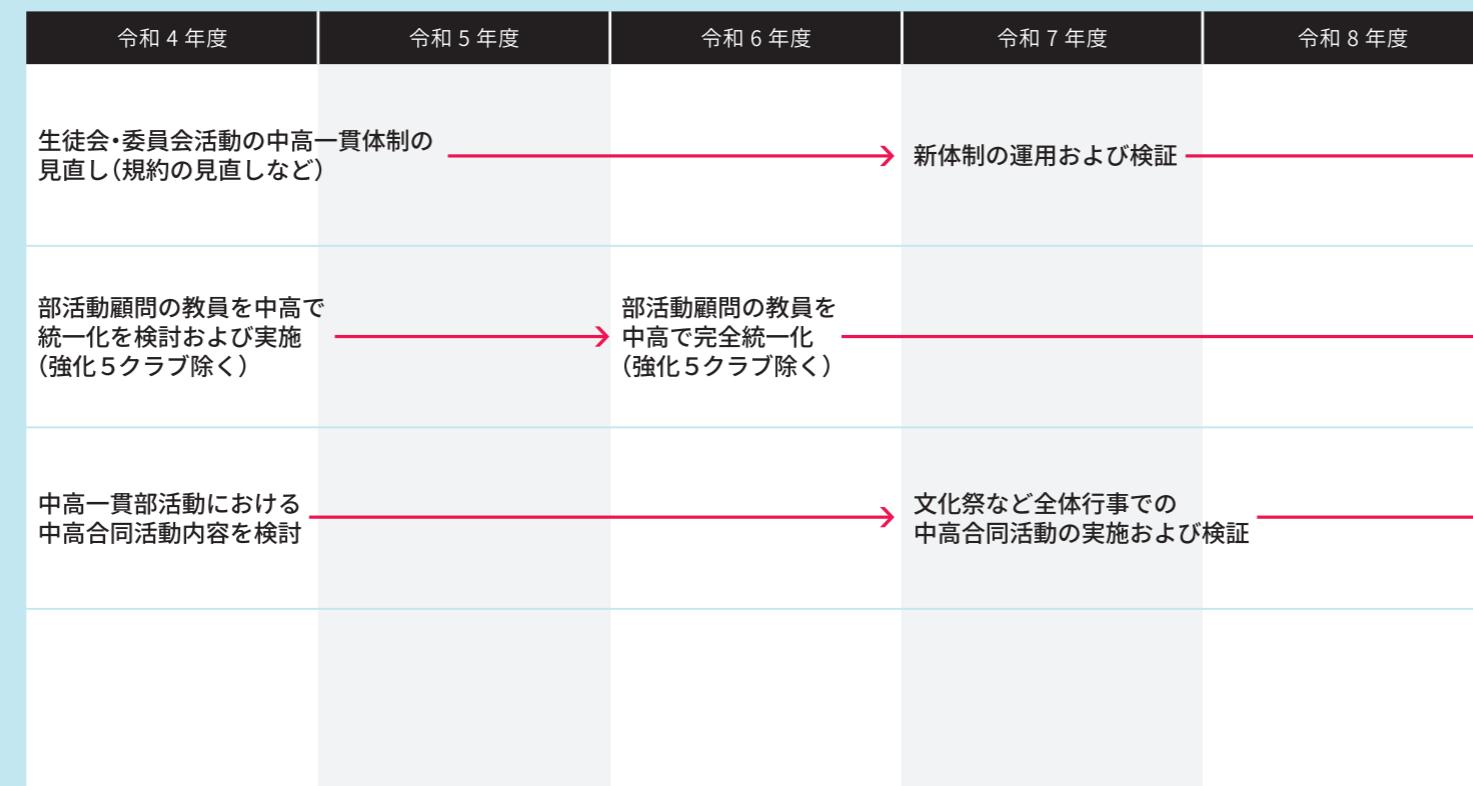
生徒が主体となり、中高の生徒たちが学年を超えて協力し合い、年間行事や課外活動に取り組んでいける体制を今後も継続して強化していく。クラブ活動(強化5クラブを除く)では、中高6年間を通して活動することを前提として、生徒たちが6年間活動を続けることができる体制を構築していく。

現在の姿

[生徒支援] 生徒が主体性や協調性を高められるように、中高が連携した異年齢による生徒会・委員会活動の見直しをさらに推し進めていく必要がある。中高6年間を生かした部活動の合同活動体制を実現するために、いくつかの課題を抱えている。

現在の指標

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| 環境美化活動 10 回 | 文化祭生徒団体主催企画数 6 件 |
| 文化祭来場者 8,950 人 | 中高統一クラブ 18 クラブ |



達成後の姿

[生徒支援] 中高合同の生徒会役員選挙や文化祭といった校内イベントで、生徒が実行委員会組織を主体的に動かしている。6年におよぶ協働の環境が提供されることで、学校全体の一体感が一層高まり、生徒が自身の成長を実感できている。6年間の部活動を通じた交流によって、得がたい体験の場が実現し、生徒が自己成長の場として認識するようになっている。

評価指標

| | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 環境美化活動 15 回 | 文化祭生徒団体主催企画数 12 件 |
| 文化祭来場者 9,000 人 | 中高統一クラブ 20 クラブ |

戦略

3

BYOD の導入および 学習プログラム・クラス運用の再構築

戦略達成のストーリー

BYODを活用した授業を適宜行っていくとともに、日本文化体得や国際理解教育のプログラム内容を充実させていく。また、交換留学制度実施に向けた準備およびCCプログラムを更新し、日本文化を基軸とした国際的人材の育成を図る。さらに年間行事の見直しや、男子・女子の各クラスの学習内容をより魅力的なものとしていく。

現在の姿

[教育の質] 年間行事の体系化に向けた再構築に取り組む必要がある。STと男子一般クラスについて、実情に即したカリキュラムに更新する必要がある。国際教育と日本文化体得プログラムについて、さらなる質の担保を目指す必要がある。

[DX/ICT] BYODの本格的な授業導入が実現できる環境が求められている。

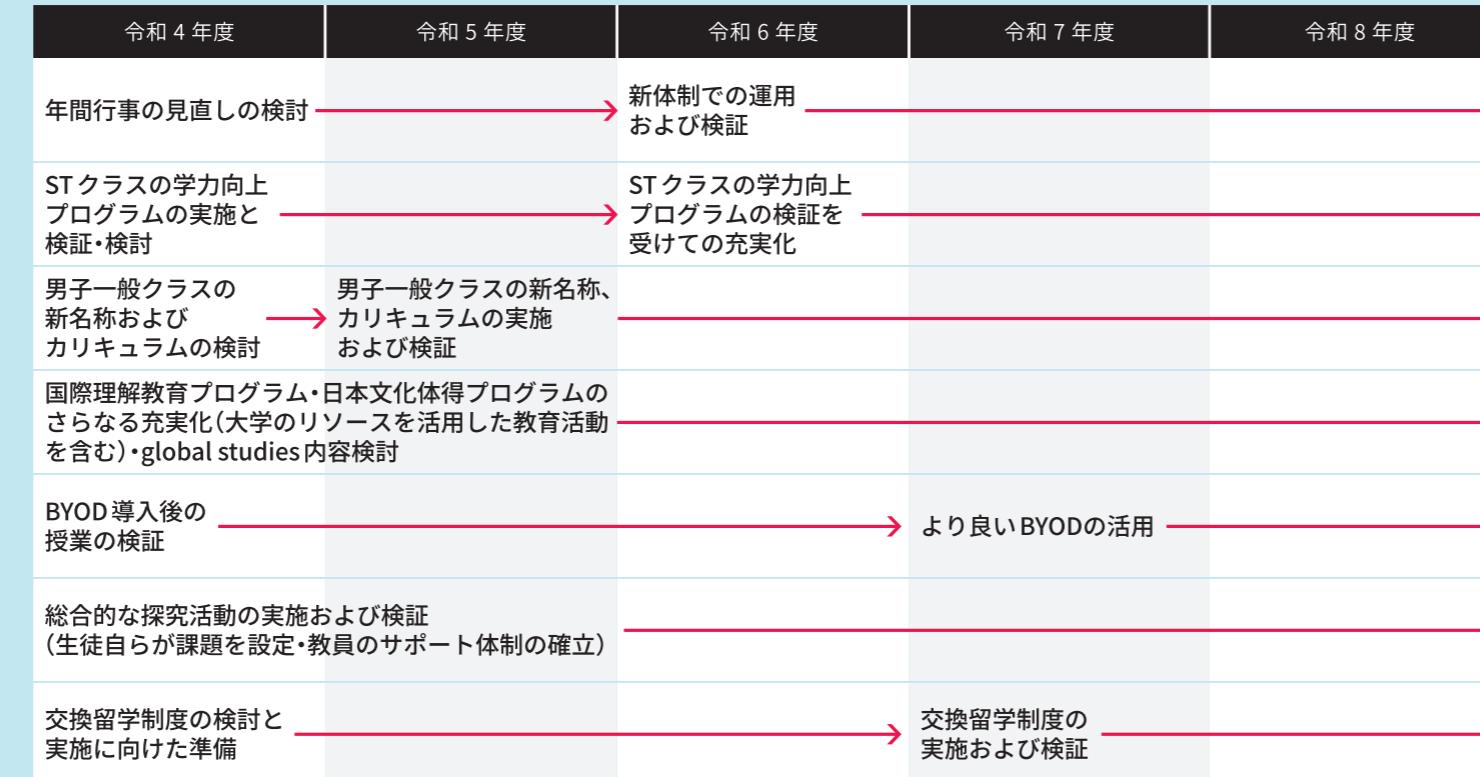
現在の指標

男子一般クラス改変
検討段階

国際理解教育の
検証進捗率
50%

ST クラス学力向上
プログラム改定進捗率
10%

BYOD の
授業活用進捗率
10%



達成後の姿

[教育の質] 生徒を主体とした各種行事が実施され、行事間が有機的なつながりを持って生徒に提供されている。新たなプログラムやカリキュラムの提供によって、ST クラスでは進学実績が向上し、男子一般クラスでも成果がうまれている。日本文化を正しく理解し、共生社会を支える人材を育成するための空間が担保されている。

[DX/ICT]

BYODの導入によって、生徒がストレスなく質の高い授業を受けられる環境に移行できている。

評価指標

男子一般クラス改変
進捗率
90%

ST クラス学力向上
プログラム改定進捗率
100%

国際理解教育の
検証進捗率
100%

BYOD の
授業活用進捗率
70%

年間行事の
見直し進捗率
90%

交換留学生受け入れ人数
2人

戦略

4

中高一貫教育におけるメリットの最大化

戦略達成のストーリー

強化5クラブ(野球、ラグビー、サッカー、陸上競技、バスケットボール)が今後も全国レベルで活躍できるように、指導体制の見直しと再編を継続的に行っていく。また、定期的な満足度調査の実施と結果に沿った広報活動により、入学志願者の増加を図るとともに、国学院大学だけではなく理系大学との高大連携事業を検討・実施していくことで生徒たちの学力の底上げにつなげていく。

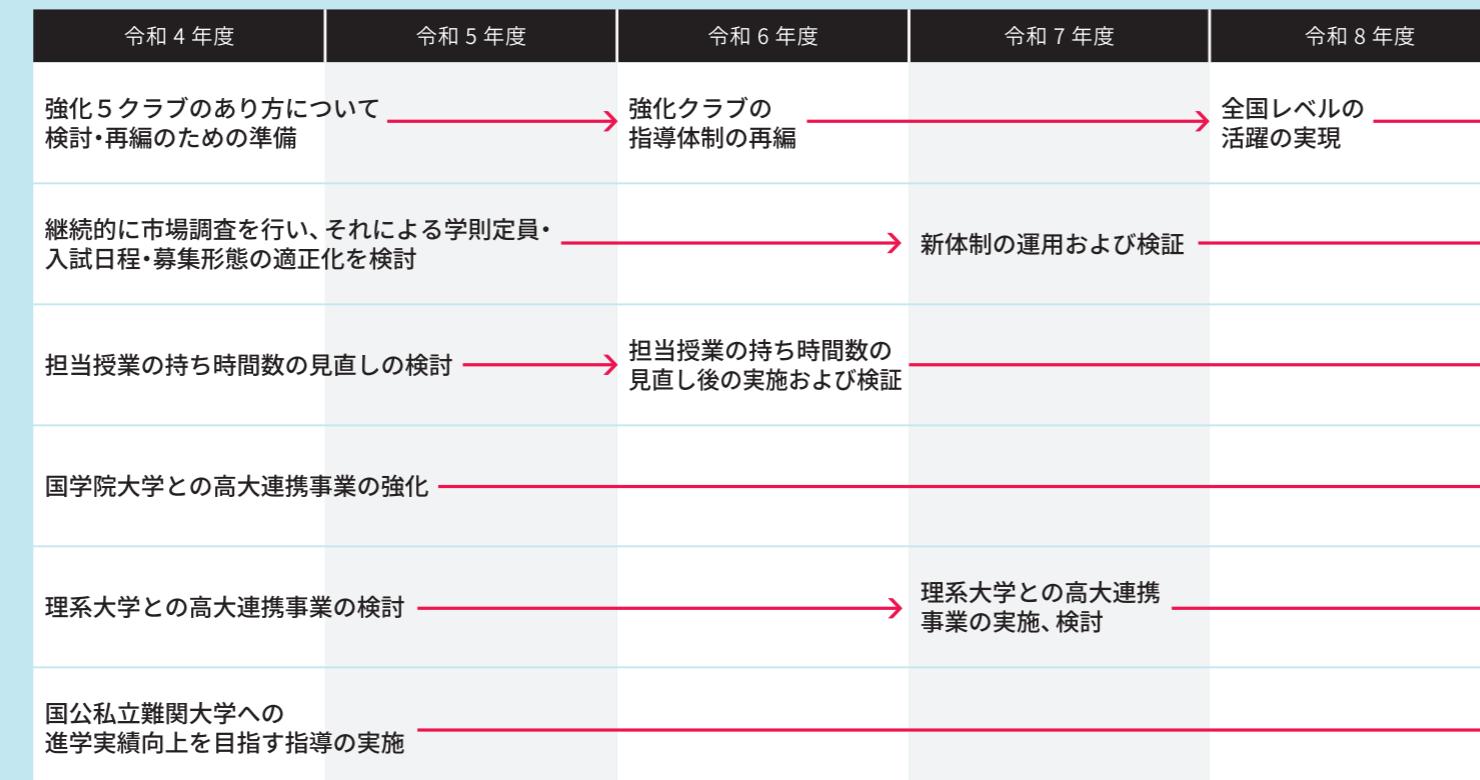
現在の姿

[教育の質] 強化5クラブが全国大会レベルを維持していく必要がある。社会情勢に見合った適切なクラス規模での教育活動や、難関大学への進学実績を拡大するための指導・支援が求められている。働きやすい環境を整備するため、教員一人当たりの授業時間数について見直しが求められている。

現在の指標

強化5クラブ全国大会
連携事業年間企画数
ベスト16以上
2 クラブ

中学受験志願者層
偏差値
57



達成後の姿

[教育の質] 指導体制の見直しや再編によって、強化5クラブが常に全国大会上位を狙える実力を維持している。全クラス学級編成30人台が実現され、生徒一人ひとりに目が行き届いた教育体制を実現させている。適正な入試改革が調査等に基づいて実現できている。国学院大学や理系大学との高大連携事業が生徒に提供されている。国公私立難関大学への進学実績が伸びている。

[教職員組織] 新たな運用体制が働き方改革を実現させている。

評価指標

強化5クラブ全国大会
連携事業年間企画数
ベスト16以上
3 クラブ

中学受験志願者層
偏差値
60

教員の標準持ち時間数
16 時間

難関大学への
進学実績
220 人

戦略

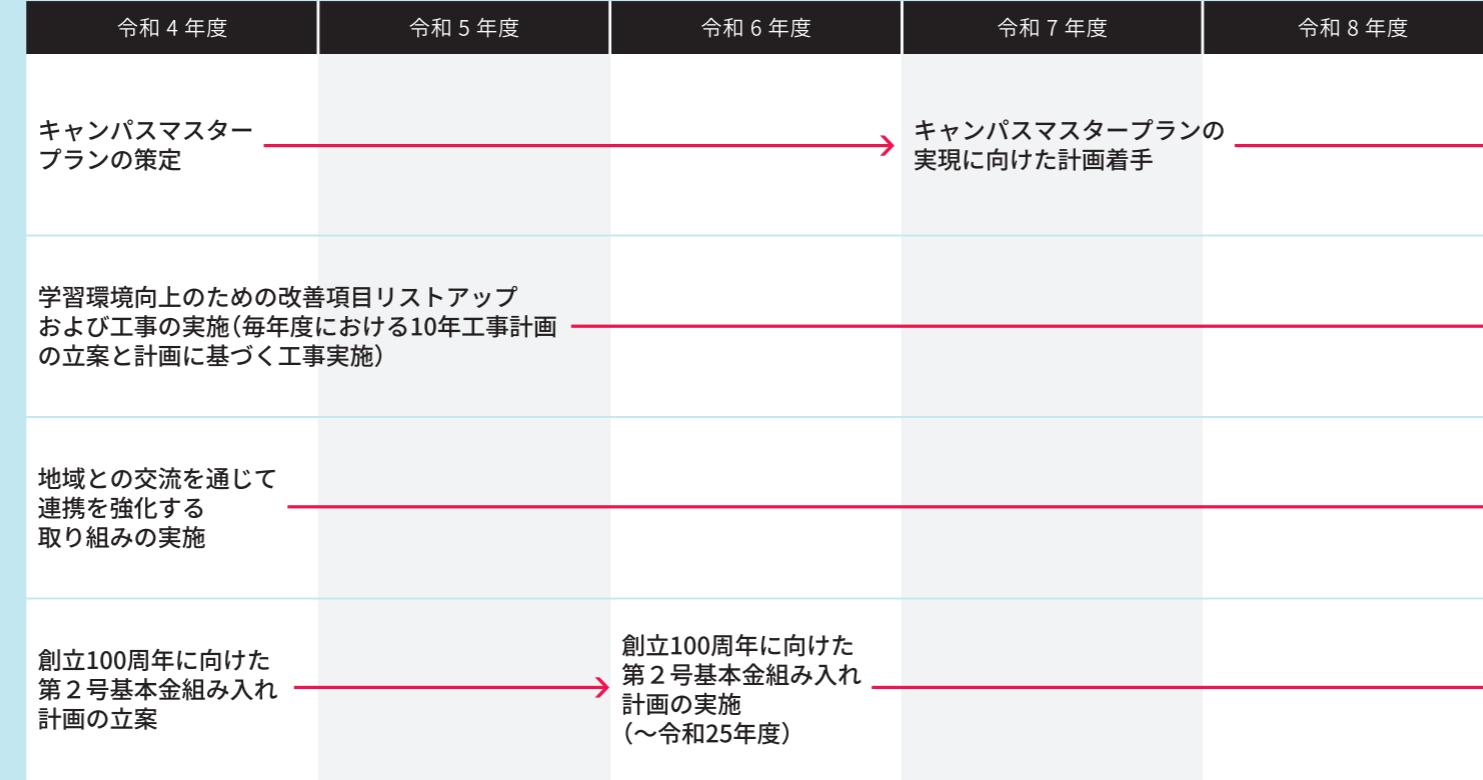
5

地域社会を含めたキャンパス像の構築と 安全で安心な教育環境の整備

戦略達成のストーリー

既存施設と本校を取り巻く法規制の整理と、校舎ごとの新築・改築・改修の区分けを行い、キャンパスマスターplanを策定していく。また、安全で安心できる学びの環境を継続して整備し、教育環境の向上を図るとともに、地域社会から愛される学校を目指し、行政や近隣地域との信頼関係を構築していく。

| 現在の姿 | |
|--|-----------|
| [学びの場] 多様な教育環境に適した学習機会を生徒に提供するため、キャンパスマスターplanを策定する必要がある。創立100周年(令和26年)に向けた事業の備えとして、事業および資金計画の準備を進めていく必要がある。 | |
| [地域連携] 行政や地域との連携をより一層深めていく必要がある。 | |
| 現在の指標 | |
| キャンパスマスターplan策定 | 地域共催行事の実施 |
| 準備段階 | |
| 創立100周年に向けた積立金進捗率 | |
| 準備段階 | |



| 達成後の姿 | |
|---|-----------|
| [学びの場] キャンパスマスターplanが完成し、令和16年の創立90周年事業として体育施設複合棟の計画が具体化されている。生徒が居心地の良さを感じ、自ら学ぶ力を育みやすい教育環境を提供できている。創立100周年に向けて、本館建て替えを視野に入れた事業計画が資金計画とともに検討され、実施に移っている。 | |
| [地域連携] 行政をはじめ自治会や地元商店街との連携を深め、本校との良好な関係が構築されることで、地域社会と共に歩める学校となっている。 | |
| 評価指標 | |
| キャンパスマスターplan策定 | 地域共催行事の実施 |
| 完了 | |
| 創立100周年に向けた積立金進捗率 | 3回 |
| 30% | |

戦略

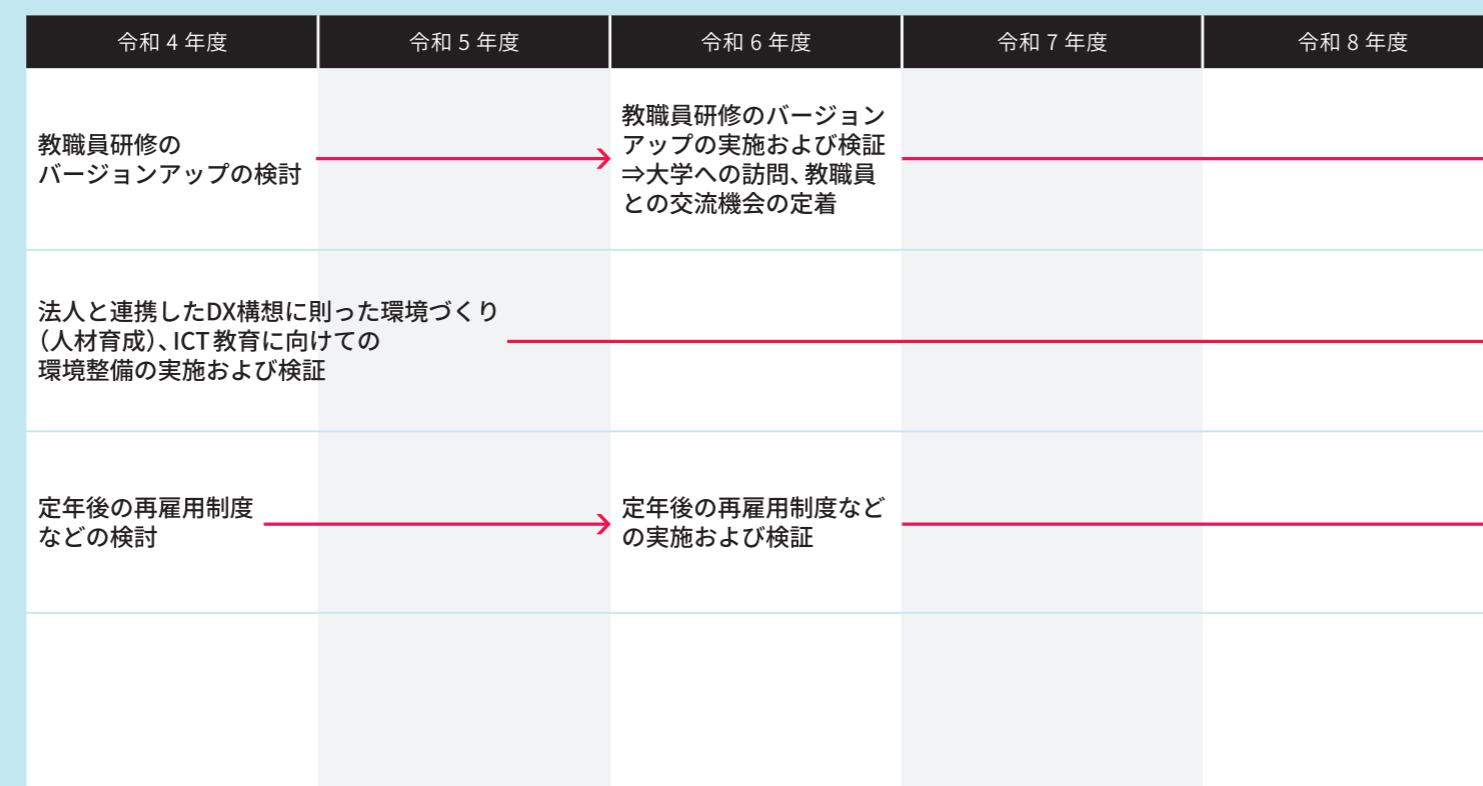
6

新たな『国学院久我山』を創造するという 気概を持った協働

戦略達成のストーリー

研修や交流を通して、「国学院」の歴史や目指すところをより深く理解し、法人の一員としての意識を高めていく。またICT教育やDX構想など、時代のニーズに合わせた職場環境の整備を検討し、最適化を進めていくとともに、定年後の再雇用制度を実現させ、人材の活用および安定した教育環境の構築を推進していく。

| 現在の姿 | |
|--|----------------------------|
| [教職員組織] 一人ひとりが「国学院」の一員として、グローバルな人材育成に資する教職員としての共通理解を高める必要がある。キャリアを積んだ教員が活躍し続けられる環境づくりが求められている。 | |
| [DX/ICT] 教職員のICTスキル格差を是正し、既存システムの全体把握と理解を深めて、業務の効率化を図る必要がある。 | |
| 現在の指標 | |
| BYOD の授業活用率 10% | 法人内研修会参加率 40% |
| 検討段階 | |
| 教職員研修満足度 30% | 退職者再雇用制度の利用率 10% |



| 達成後の姿 | |
|---|----------------------------|
| [教職員組織] 教職員が「国学院」への理解を深め、その伝統を堅持しつつも、社会変化にも対応できる柔軟な人材であり続けている。教員が自身の築いたキャリアを生かすことのできるバランスの取れた人員配置によって、高い教育水準を提供できている。 | |
| [DX/ICT] スキルの高い教職員がリーダーとなり、全員が一丸となってICT教育の推進に取り組めている。教職員の業務効率化が、既存システムの「見える化」による把握と理解によって実現している。 | |
| 評価指標 | |
| BYOD の授業活用率 70% | 法人内研修会参加率 90% |
| 検討段階 | |
| 教職員研修満足度 75% | 退職者再雇用制度の利用率 10% |